

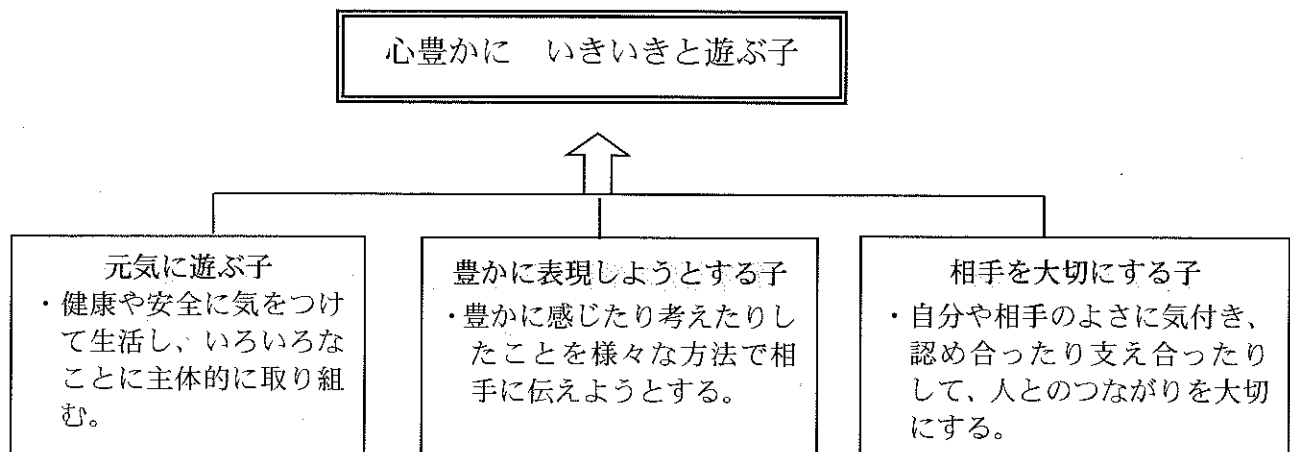
社会の急激な変化にともなって、幼児を取り巻く環境も大きく変化してきている。本園では、幼稚園教育の基本を踏まえ、幼児期にふさわしい生活や遊びを展開しながら豊かな心情や物事に主体的に取り組もうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度や生活習慣など「生きる力」の基礎をはぐくむ教育の推進に努め、より一層の教育充実を目指す。

## I 本園の教育目標

生きる力の基礎をはぐくむ

—幼稚園・家庭・地域の連続した生活の中で—

## II めざす幼児像



## III 本年度の重点課題

- 1 環境を工夫し、魅力ある園づくりを進める。
- 2 3年間の発達を見通し、基本的な生活習慣や態度の定着を図る。
- 3 様々な人々との交流を深め、あたたかい人間関係の基盤づくりを進める。
- 4 体を動かすいろいろな遊び（コーデイネーショントレーニングを含む）を通して、健康な体と心の育成・安全安心の教育の充実に努める。
- 5 教師としての専門性を磨き、保護者や地域と連携しながら指導の充実に努める。
- 6 保育園、子育て支援センターとの交流を通して、互いの保育理解に努めて教育の充実を図る。

## IV 達成のための方策

### 1 環境を工夫し、魅力ある園づくりを進める。

- (1) 心安らぐ、あたたかい雰囲気園づくりに努める。
  - ① 一人一人が安定して生活できるよう、心の居場所づくりに努める。
  - ② 一人一人の思いを受け止め、よさや頑張りを認めていく。
- (2) 身近な自然とのふれあいを通して、豊かな感性や表現力をはぐくむ。
  - ① 身近な自然環境にふれ、四季の美しさや変化などを感じられるようにする。
  - ② 生き物を身近に見たり触ったりして心ふれ合う場を大切にする。
  - ③ 動植物の世話を通して、命の大切さを感じられるようにする。
  - ④ 幼児の驚きや感動などをしっかり受け止め、共感する。
- (3) 幼児が自分なりのめあてをもち、意欲的に取り組める環境を整備する。
  - ① 発達段階を考慮し、幼児が興味関心をもって取り組める環境を構成する。
  - ② 主体的、意欲的に取り組めるよう環境の再構成をしていく。
  - ③ 様々な直接体験ができる場を大切にする。

### 2 友達や教師と一緒に生活しながら、基本的な生活習慣や態度の定着を図る。

- (1) 毎日の生活や様々な人と交流する中で、進んであいさつができるようにする。
- (2) 3年間の発達を見通し職員で共通理解しながら、身の回りの始末や片付け、食事の仕方などがしっかり身につくよう指導していく。
- (3) 人の話を聞く時や公共の場での態度など、その場に応じた適切な行動ができるよう皆で考える場を大切にしながら指導する。
- (4) 生活のリズムや食事の習慣などが身につくよう、家庭との連携を図る。

### 3 人とのふれあいを通して、道徳性の芽生えや信頼感を育む。

- (1) 一緒に生活する中で、相手の思いに気付き、思いやりの気持ちを育む。
- (2) 友達と楽しさを共有し、新しいことや困難なことでも一緒にやり遂げる満足感や達成感が味わえるようにする。
- (3) 集団生活の中では、ルールがあることや自分のしたことには責任があることに気付き、守ろうとする気持ちを育む。
- (4) 保育園児や小学生、図書ボランティア、地域の高齢者など、様々な人と心が通い合ううれしさが感じられるよう継続した交流を進める。

### 4 様々な体験を通して、豊かな心をはぐくみ、健康な体づくりに努める。

- (1) 絵本の貸し出しや読み聞かせの機会を多くもち、お話の世界に夢を広げ想像する楽しさが感じられるようにする。
- (2) 日本の伝統を大切にしながら、国際的な言葉や文化にふれる機会をもつ。

- (3) 戸外遊びを通して、体を動かす楽しさを感じながら基礎的な体力づくりに努める。
- (4) 野菜を育てたり調理したりして、食に対する関心がもてるようにする。
- (5) 日常生活の中で、身近な環境について考える機会をもち、物を大切にしようとする心を育む。

## 5 教師の専門性を磨き、指導の充実に努める。

- (1) 教育の専門家としての資質向上をめざす。
  - ① 幼児の姿や発達段階からできるだけきめ細やかな指導計画(長期・短期)を作成し、ねらいや内容を共通理解する。
  - ② 全職員が幼児にかかわり、情報交換しながら幼児理解を深め、指導の充実に努める。
  - ③ 幼児の育ちや遊びの様子から日々の実践を点検、評価し、計画の見直しや保育の構想に努め、実践していく力をつける。
  - ④ 他の教師からの助言を謙虚に受け入れ、内容の充実と指導力向上をめざす
  - ⑤ 課題をもって取り組み、自己評価、学校関係者評価を指導に生かしていく。
- (2) 事例提供による保育研修をし、視野を広げる。
  - ① 事例を出し合い、意見を聞いて事後指導に生かしていく。
  - ② 他の教師からの事例を自分への課題として捉え、考え方を整理したり視野を広げたりできる機会として主体的に考える。
- (3) 人間的魅力のある教師をめざす。
  - ① ジャンルを超えた幅広い教養を身に付け、いきいきとした生活をする。
  - ② ボランティア活動を通して職場以外でも自分の力を発揮する。
  - ③ 互いの努力を認め合い、励まし合いながらあたたかい人間関係をつくる。
- (4) 特別支援教育の充実に努める。
  - ① 支援を必要とする幼児の発達の特性を理解し、支援計画や指導計画を作成する。
  - ② 保護者や専門機関との連携を図る。
  - ③ 様々な機会を通して、周りの幼児や保護者の理解を深めていく。
- (5) 小学校や関連諸機関との連携を推進し、育ちの連続性を考える。
  - ① 幼小連携を進め、幼児にとっての滑らかな育ちの接続性を大切に考える。
  - ② 3歳児健診で入園前の育ちや生活を知り、指導に生かす。
  - ③ 5歳児発達相談を保育にいかし、諸機関との連携を深めていく。
  - ④ 保育園、子育て支援センターとの交流を通して互いの保育理解に努め教育の充実に努める。
- (6) 社会の変化に対応し、保護者や地域との関係を構築する力をつける。
  - ① 教師の願いやねらいを伝える機会をもち、親子で成長できるよう努める。
  - ② 保護者の不安や悩みについて、いつでも相談できるよう啓発し信頼関係を深める。

## V 本年度の研究テーマ

### 遊びの充実 ー環境のあり方を考えるー

幼児は、遊びや生活を通して、自己を発揮し、安心感や充実感を味わいながら、豊かに学んでいきます。また、物や人との関わりも深めていきます。本園では、幼児の生活の中心である遊びに焦点をあて、実践を振り返りながら、幼児理解を深め、遊びの充実に向けて日々の保育に取り組んでいきます。

#### ー研究の視点ー

- (1) 一人一人の内面を読み取り、幼児の心の動きに寄り添いながら、個々の興味・関心に応じて丁寧に関わってきます。
- (2) 生活の中で異年齢児とのかかわりを通して、互いに刺激を受け合ったり、共に学び合ったりできるような豊かな環境を整えていきます。
- (3) 身近な環境に興味・関心をもって自ら関わり、遊びを継続し発展させながら夢中で遊べるように教師の援助や環境構成に努めます。
- (4) 遊びの中の学びを意識し、“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿”と関連付けながら、見通しをもった保育を展開し、幼児が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるように努めます。
- (5) 様々な研修を通して、教師としての感性や専門性を磨き、保護者や地域とつながりながら保育の充実に努めます。